

海外安全対策情報 2018年度第4四半期（1～3月）

1 社会・治安情勢

- (1) 国家文民警察によると、グアテマラシティ周辺では引き続き、バス運転手への恐喝事件が多く発生している。また報道によれば「恐喝を行うのは主に『バリオ18』または『マラ・サルバトルーチャ』（いずれも青少年凶悪犯罪集団マラスの一組織）の2グループで、それぞれに500ケツアル（約7千円）ずつ定期的に支払う。バス運転手が仕事を続けるためにはみかじめ料を払うしかない」としている。
- (2) 1月21日、首都グアテマラシティ第7区で、路線バス内で手製爆弾が爆発し、犯人を含む7名が負傷する事件が発生した。犯人は19歳の女で、バス運転手を恐喝するため手製爆弾を持ってバスに乗り込んだところ、誤って女の手元で爆発したと報道されている。なお事件現場は、長距離バスターミナルのすぐ裏手であった。
- (3) 主に観光客が利用する1等バスも、恐喝や襲撃の対象となりうる。1月9日、世界遺産マヤ遺跡に近い当地有数の観光地・フローレス（ペテン県）と首都の国際空港を結ぶ夜行バスに対し、何者かによって銃弾十数発が撃ち込まれ、乗客6名が負傷する事件が発生した。
- (4) 対日感情は良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 国家文民警察が発表している犯罪統計によると、各種犯罪件数は減少傾向にあるものの、殺人件数は微増しており、治安が改善しているとは言えない状況である。

殺人	927件（前年比	2.2%増）
傷害	853件（	18.8%減）
強盗・窃盗	2,026件（	30.3%減）
強姦	90件（	11.7%減）
誘拐	4件（	42.9%減）
行方不明	489件（	21.5%減）
家庭内暴力	261件（	7.7%減）

(2) 銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器

が使用されている。国家文民警察の報告によると、2019年1月～3月に治安当局が取り扱った殺人事件927件のうち、銃器を使用した事件は744件（全体の80%）に達する。依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は高い。

（３）邦人の被害事案

ア 1月30日夕方、当国西部ケツアルテナンゴ県内にて、邦人女性が地元女性と二人で歩いていたところ、酔った男に話しかけられた。その場から立ち去ろうとしたところ、男に「持っている金と携帯電話を出せ」と言われ、財布を差し出した。

イ 3月10日夜、首都グアテマラシティで邦人が私有車を運転し、交差点にて停止中、信号が青に変わったので発進しようとしたところ、信号を無視した大型車両が交差点に進入し、邦人車両と衝突した。邦人は軽傷を負ったほか、同乗者も骨を折るなどの重症を負った。なお、大型車両のドライバーは飲酒運転であったとのこと。

（４）邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 1月28日午後、在留邦人が多く居住するグアテマラシティ第14区で、路上で立ち話をしていた男女に対し、男が拳銃を持って近づいて脅し、何かを強奪した後に車で立ち去る様子が、近くの防犯カメラに捉えられていた。

イ 1月31日14時頃、在留邦人が多く居住するグアテマラシティ第14区で、徒歩で移動していた女性に対し男が近づき携帯電話を強奪した様子が、近くに設置された防犯カメラに捉えられていた。なお、同現場は邦人住居アパートの目の前であった。

ウ 2月15日午後5時頃、在留邦人が多く居住するグアテマラシティ第14区の遊歩道で、男性が銃で撃たれ死亡した。被害者男性の職業は集金業務等を行うメッセンジャーであり、同被害者が持ち運んでいた現金を狙った強盗殺人事件とみられている。

エ 3月10日深夜1時頃、グアテマラシティ第10区に所在する日本国大使館から約320m離れた飲食店「Rumbar」の前で、男性が複数の銃弾を受け死亡した。

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか、報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

脅迫電話および同メールは、腹いせやいたずらによるものが大部分であるものの、避難や警察当局への通報などの処置をすることが肝要である。（了）